エクセル（全天候型舗装補修材）

取扱説明書

エクセルとは…

1. 降雨時、降雪時、水たまりにでも使用できます。
2. 誰でも簡単に施工できます。（ワンタッチ開封袋使用）
3. 車が補修箇所を踏むことにより、徐々に固まります。
4. 表面硬化後は高い耐久性を示します。
5. 余った材料でも、長期間使用できます。

特徴は…

○従来の全天候型舗装補修材との大きな違いは、通行車両などのショックを伴う圧力を感知して徐々に硬化する、加圧反応型のバインダーを使用していることです。
袋を開封しても長期間使用可能なので、余った材料を破棄する必要がありません。
※従来の全天候型舗装補修材は、袋を開封した時点から硬化を開始する、自然反応型のバインダー（主に温度･空気･水などに反応して硬化するタイプ）を使用しています。

○表面は通過車両により転圧されて硬化しますが、接着面はバインダーが生きており、路面に張りついたまま、時間をかけてじっくりと接着･安定していきます。
路面の変形に対する追従性が優れており、割れに伴う飛散が発生しません。
○従来品と比べると、タイヤに付着しにくいバインダーを使用しています。
※エクセルには、石粉が付属しています。（必要ない場合には、注文時にご指定ください。）
※エクセルは袋の中で多少硬くなることがありますが、品質に変化はありません。袋の状態でほぐしてから使用してください。
※エクセルは常温型アスファルトを使用しています。ガスバーナーなどでの加熱はしないでください。

商品ごとの主な使用例

商　品　名	通行車両の少ない道路	通行車両の多い道路
エクセル･パッチ（一般用）	深さ約2～5cm程度のポットホールや路面のくぼみ･陥没部分･段差補修などに使用。	深さ約3～5cm程度のポットホールに使用。
エクセル･ハード（粗め）	深さ約3～5cm程度の水道･ガス･電気工事の小規模な舗装復旧に使用。（プレートコンパクタを必ず使用）	深さ約4～5cm程度のポットホールに使用。
エクセル･ハイ（細かめ）	深さ約1～5cm程度のポットホールから段差補修まで、多様な用途に使用。	深さ約2～5cm程度のポットホールに使用。
エクセル･フィット（砂タイプ）	厚み約2cm程度までの段差補修やクラック補修に使用。	厚み約2cm程度までの段差補修やクラック補修に使用。
使　用　方　法	約0.2m^{2}程度以下の小規模な施工の場合には、足または自動車のタイヤで表面を踏む程度で交通開放します。 約0.2m^{2}程度以上の大規模な施工の場合には、プレートコンパクタなどの締固め機械を使用します。	約0.2m^{2}以下の小規模な施工に使用します。 プレートコンパクタなどで十分転圧した後、交通開放します。

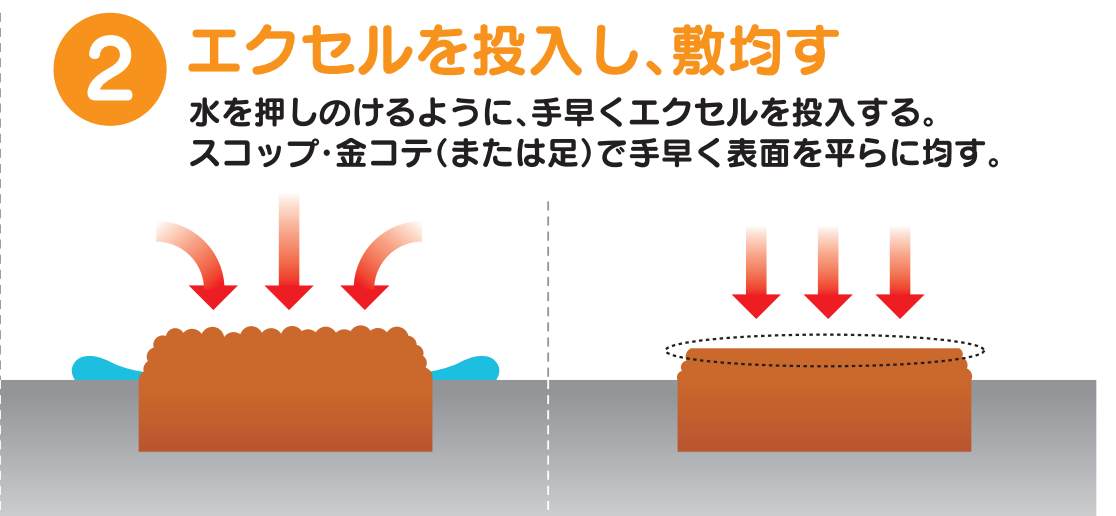
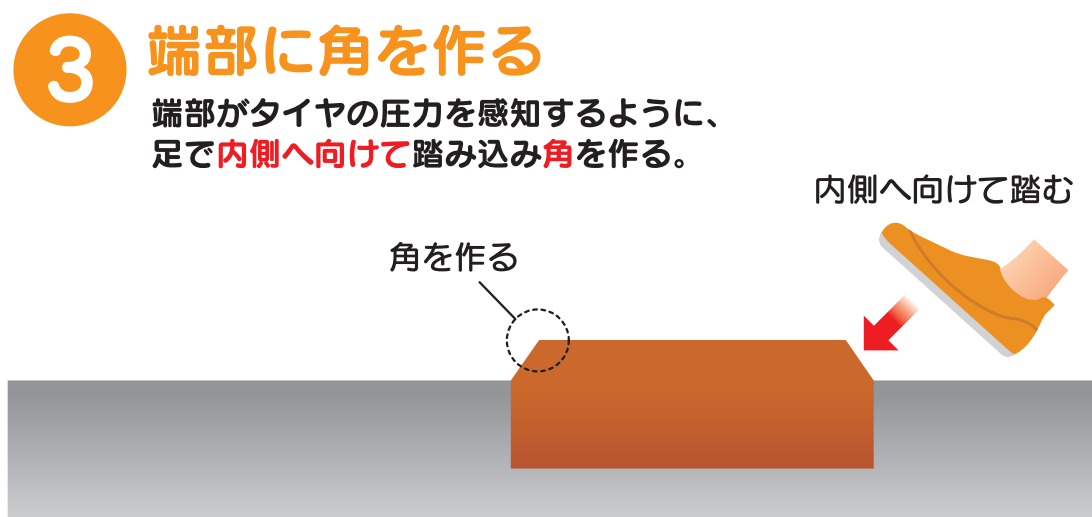
※施工厚が上記の範囲以上の場合は、2層以上に分けて施工してください。
※使用する自治体ごとに多少の差異はありますが、上記のような使用例にて利用されています。

エクセルの一般的な施工方法（市町村道・県道などにおいて小規模なポットホールを補修する場合）

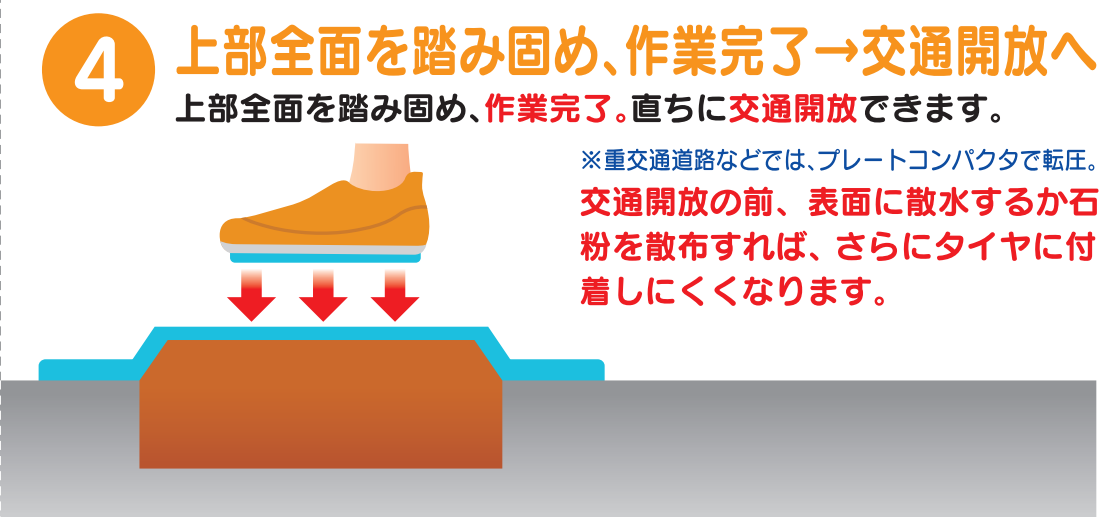
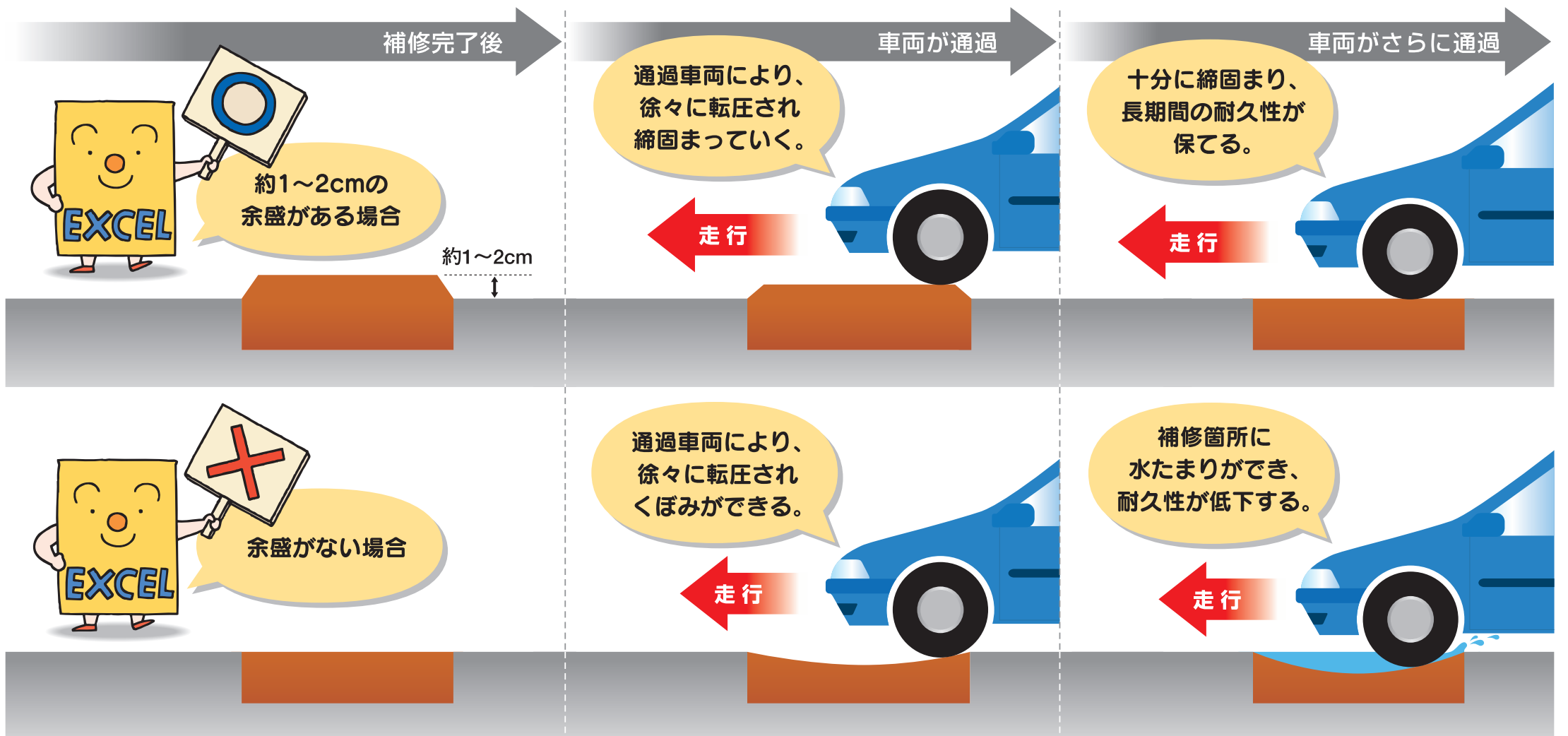
1 施工箇所の掃除
※施工箇所の接着面がきれいな場合は、特に必要ありません。

接着面に付着したホコリを取るために、ほうきなどで掃除する。
（泥などの汚れがひどい場合は水で洗い流すと良い）

雨天時等には、水が溜まったままでも施工が可能です。

2 エクセルを投入し、敷均す
水を押しのけるように、手早くエクセルを投入する。
スコップ・金コテ（または足）で手早く表面を平らに均す。

3 端部に角を作る
端部がタイヤの圧力を感知するように、足で内側へ向けて踏み込み角を作る。

4 上部全面を踏み固め、作業完了→交通開放へ
上部全面を踏み固め、作業完了。直ちに交通開放できます。

※重交通道路などでは、プレートコンパクタで転圧。

交通開放の前、表面に散水するか石粉を散布すれば、さらにタイヤに付着しにくくなります。

エクセルの耐久性を高める正しい施工方法

エクセルの耐久性を高めるポイント

1. 路面より約1～2cm高く余盛する。
2. 補修箇所に水たまりができた場合、その上からエクセルを補充する。
3. タイヤによるネジレが発生するカーブなどや薄層仕上げとなる箇所などは、十分な転圧をする。

※注意：タイヤのネジレが想定される箇所や、薄層仕上げとなる箇所などの補修に使用される場合は、モデル施工などにより使用後の状況を確認し、使用してください。上記のような場所に使用した場合には、表面や端部の骨材が飛散する恐れがあります。

金亀建設株式会社

〒790-0062 愛媛県松山市南江戸2丁目660番地1
TEL.089-984-2701　FAX.089-984-2139
http://www.kinkikensetsu.co.jp/

■販売代理店